

地域活性学会 第13回研究大会
(Vセッション、2021年9月12日、オンライン)

尾張七宝焼の伝統と展望

愛知東邦大学

窪田 由奈

目次

- I 背景・目的
- II 研究方法・研究内容
- III 研究結果
 - III-1 七宝焼の歴史
 - III-2 七宝焼の制作工程
 - III-3 尾張七宝焼の現状
 - III-4 尾張七宝焼の課題
 - III-5 尾張七宝焼の「職人」の現状
 - III-6 七宝焼の振興拠点「あま市七宝アートヴィレッジ」ねらい／施設概要／様々な取組み
- IV 考察・今後の展望

I 背景・目的

- 「七宝焼」は、日本の伝統工芸品の一つ
- 「尾張七宝焼」は、愛知県あま市七宝町で生産
- 七宝焼の窯元は、愛知県内にかつて 200 軒以上
現在わずか 8 軒に減少
- 尾張七宝焼が地元七宝町の人々自身にも、改めて理解が広がるにはどうしたらいいか
- 尾張七宝焼を通して、住民同士の交流を図るためにはどうしたらいいか 等
を把握・検討

Ⅱ 研究方法・研究内容

- 現地調査、聞き取り
 - ✓七宝焼の職人・関係者
 - ✓あま市七宝アートヴィレッジ等
- 文献調査
 - ✓インターネット、七宝町広報誌等
- 尾張七宝焼の伝統がどのように伝えられているか
七宝焼の存続・発展のための取組み 等
を調査研究

Ⅲ-1 七宝焼の歴史

- 日本には6～7世紀頃に中国・朝鮮を経て伝来
- 1833年に梶常吉が七宝の作り方を発見
- 愛知県尾張地方が日本の「七宝焼」製造の中心地となる
- 1995年、経済産業大臣指定の伝統工芸品に

Ⅲ-2 七宝焼の制作工程(1)

- 他の焼き物とは異なる素材と工夫でできている
- 七宝焼の伝統は、七宝屋が家業として代々受け継ぐ
- 家系によって釉薬の調合が僅かに異なり、色や手法が異なる
- 以下のような数多くの工程を経て完成

Ⅲ-2 七宝焼の制作工程(2)

- ① 図案を作成
- ② 銅板で原型を作り、素地を作る
- ③ 素地に乳白色の釉薬を焼き付け、その上に下絵を描き、下絵付け
- ④ 素地のアールと下絵の曲線を汲み取り、銀線にカーブを作り、素地表面に垂直に接着、銀線付け
- ⑤ 銀線ロウ付
- ⑥ 少しずつ釉薬を入れて色味を深める
- ⑦ 釉薬をつけては焼成（3回程度繰り返す）
- ⑧ 800度の窯で製品全体を均一に焼き上げ
- ⑨ 研磨をする
- ⑩ 覆輪付けをする

七宝焼の制作(筆者体験)



(筆者撮影) 左側が焼く前で、
右側が完成した七宝焼



(筆者撮影) 上写真が焼く前
下写真が完成した七宝焼

Ⅲ-3 尾張七宝焼の現状

- あま市では現在、10 軒（会社・個人）が七宝焼関連の仕事に従事
- 窯元は、かつて 200 軒あったが、
現在 8 軒にまで減少している。
- 産業としては極めて厳しい状況にある
- 衰退傾向から飛躍的な発展に転じることはないものと見られている

Ⅲ-4 尾張七宝焼の課題

窯元が減少している要因

- 跡取りがない
- 原料が手に入りづらくなっている
- 職人として生計を立てることが困難な社会・経済状況
- 伝統を守りながら発展させるのには矛盾が生じる

Ⅲ-5 尾張七宝焼の「職人」の現状

- 多くの職人が、お金のためでなく、
代々の「伝統」を守るために働いている
- 尾張七宝焼の体験教室や実演に携わる
尾張七宝焼と地元地域への貢献に努める
- 簡単には職人になれず、
途中で諦めてしまう人も多い

Ⅲ-6-1 七宝焼の振興拠点「あま市七宝アートヴィレッジ」のねらい

- 尾張七宝焼を見て、触れて、学んで、七宝焼の全てを楽しめる振興拠点
- 住民や他地域の人たちが集えるまちのシンボリックな場所
- 自分たちの住む地域の「伝統的工芸品」である尾張七宝焼を知ってもらいたい
- 胸を張って尾張七宝焼について話せるようになってもらいたい

Ⅲ-6-2 七宝焼の振興拠点「あま市七宝アートヴィレッジ」の施設概要

- 七宝焼ふれあい伝承館
 - ✓七宝焼の作品鑑賞や制作工程の見学等
 1. 導入ゾーン
 2. 作品展示ゾーン
 3. 動態展示ゾーン
 4. 七宝焼体験ゾーン⇒オリジナルの七宝焼を作る
- ふれあい広場
 - ✓散策路や広場など来館者の憩いの場

Ⅲ-6-3 七宝焼の振興拠点「あま市七宝アートヴィレッジ」の様々な取り組み

- 学芸員による「七宝歴史講座」を開催
 - ✓1回目は七宝焼や尾張七宝の基礎的知識を全般的に解説
 - ✓2・3回目は対象を絞り毎回異なるテーマで開催
 - 深く解説した内容
 - 企画展のテーマをより深く掘り下げた内容等
- 催しがあまり知られていないことが課題
 - ✓様々な年齢層の耳に入るような取り組みが必要
- 地域を問わず小中学校の社会見学や野外活動で受講できる取り組みが必要

IV 考察・今後の展望

- 日本の「尾張七宝焼」が世界で最も美しい
(中国・仏・ギリシャ等の世界各地にあるが)
⇒海外での需要も伸びると考えられる
- 「職場体験」的な取組みを多く行うことが有効
✓職人と一から尾張七宝焼に触れることで、興味・関心を持ち、「職人」の仕事にも関心を
- 他地域と協力して「伝統工芸品」同士でのイベントを開催して住民交流を深めることが期待される

引用・参考文献

- 株式会社 安藤七宝店「七宝の歴史」<http://www.ando-shippo.co.jp/cloisonne2.html>（閲覧日：2020年7月20日）
- 田村有紀「【残り8軒】消滅寸前の尾張の伝統工芸品・七宝焼の存続に力を貸してください」<https://faavo.jp/aichi/project/2284>（閲覧日：2020年7月20日）
- 七宝の歴史 | 七宝焼き 東京都認定伝統工芸士 東京七宝「畠山七宝製作所」https://www.tokyo-shippou.com/contents/post_7/（閲覧日：2020年10月12日）
- 窪田由奈(2021)「七宝焼の伝統と尾張七宝」『愛知東邦大学今瀬政司ゼミナール卒業論文集（2021年3月卒業）』